

ブラジルを知って 日本を知ろう！ ～ともに生きる～

学校所在府県：和歌山県

指導時数：10 時間

学 校 名：御坊市立御坊小学校

対象学年：小学6年生 3クラス

名 前：宮本 智子

対象人数：75 人

実践教科：総合的な学習の時間

1. 教師海外研修を通して感じたこと

今回の研修では、私自身、南米に行くこと自体が初めての経験だったので、見る物や聞くことがとても新鮮で、たくさんの事を吸収することができた。特に、貧民街であるファベラ地区等の問題、チエテ川の汚染水問題、ゴミ問題等を間近で見聞きし考えたことは、教師海外研修だからこそ知り得た問題だと思った。そして何よりも日本から遠く離れたブラジルに、夢と希望を持って移住した日系人の方々やブラジルで活躍されている日本人の方々の話を直接会って聞くことができたということは、私にとって大きな宝物になった。日系人の方々からは、移住したときの絶望感や幾度となく訪れる困難がありながら夢と希望を諦めずに異国の地で踏ん張り、そして成功を収めた方々の話を聞くと、その偉大さを感じた。また、今の日本では少し忘れ去られそうになっている地域での助け合いや協力等が、ブラジルに根ざした日系社会において今なお繋がっているということを知ることができた。これらの教師海外研修で知り得た問題、経験、人々との出会いを子どもたちに伝えていくことが私の使命だと感じる。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

クラスの子どもたちは1学期に国語科の単元「ようこそ、わたしたちの町へ」において、ALTの先生にわたしたちの町御坊をそして日本を紹介しよう、ということでおすすめの場所などを記したパンフレット作りを行った。そこで御坊市や日本について初めて知ったことがたくさんあった。このことから、子どもたちが日本の文化について意外と深く知らないことが分かった。ブラジルに関しては国旗やサッカー等については知っているが、日系移民の方々がいて多方面で活躍されていることは知らない。今回の学習では、ブラジルの文化や生活、日系社会等について知り、遠く離れたブラジルと日本であるが、日系移民の方々や産物を通して深い繋がりにあることに気付かせたい。また、トメアスで農業を行っている日系移民の小長野さんは、日本人の農業の技術や考えをブラジルの農業に反映させ、環境を考えた自然に優しい農業法「アグロフォレストリー」を考えだしている。今ではその農業法から出来たカカオを使ったチョコレートが日本でも製品化されており、子どもたちが食べているおやつの中には、「アグロフォレストリー農法」で生産されたカカオが入っていることについて気付かせ、その農法についても学習を深めたい。そして、ブラジルの日系社会で大切にされている日本の文化を知ると共に日本の文化について改めて調べ「ジャパニーズボックス」を作っていきたい。

これらの学習を通して、ブラジルで日本人が「約束を守り、勤勉に働く日本人」として厚い信頼を受けていて他の国々においても同じような評価で、世界に誇れる日本人の気質であることを子どもたちに伝えていければと思う。また、世界には様々な暮らしがあること、国際社会の平和と進展のために日本が世界の国々と協力し、重要な役割を果たしていることについても気付くことができたらと思う。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 はじめまして、 ブラジル！ *日本とつながりの深い国、 ブラジルに興味を持つこ とができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルについて知っていることを発表しよう。 ●世界地図でブラジルの位置を考えよう。 ●ワールドマップでブラジルの現状を知ろう。 ●ブラジルについてのミニ〇×クイズ ●突撃インタビュー！「サッカー少年編」 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界地図 ●グーグルアース ●ブラジル国旗 ●ワールドマップ ●動画
2 時限目 ブラジルについて 知ろう① *ブラジルの文化や生活に ついて知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●モノランゲージで考える。 ●突撃インタビュー！ 「ジュース工場で働くお兄さん編」 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルボックス ●動画
3 時限目 ブラジルについて 知ろう② *ブラジルの文化や生活に ついて知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●モノランゲージで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルボックス ●動画
4 時限目 ブラジルについて 知ろう③ *ブラジルと日本の繋がり について気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ●モノランゲージで考える。 ●突撃インタビュー！ 「和歌山県西牟婁出身の坂口さん編」 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルボックス ●動画
5 時限目 ブラジルについて 知ろう④ *アグロフォレストリーに ついて知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●前時のカカオ豆を使ったチョコレートのパッケージ からアグロフォレストリーの存在について知り、環 境保全について考えさせる。 ●突撃インタビュー！「和歌山の先輩、小畑君編」 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真 ●ブラジルボックス ●動画
6～9 時限目 ジャパニーズボックス をつくろう！ *日本を再発見し、日本が 世界に誇るべき文化や伝 統を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ●各班で日本文化について調べ、ジャパニーズボック スをつくる。 ●各班のジャパニーズボックスについて交流する。 	
10 時限目 キルギスについて 知ろう！ *青年海外協力隊で活躍さ れた野村隊員から国際協 力の実際を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●地元、藤田に住んでいる野村隊員から青年海外協力 隊についての話やその活動について聞く。 	

3. 授業の詳細

1 時限目：はじめまして、ブラジル！

ねらい…日本とつながりの深い国、
ブラジルに興味を持つことができる。



◆内容◆

- ① ブラジルについて知っていることを発表する。
(言葉やイメージ図で表す。)
- ② 世界地図でブラジルの位置を考える。
- ③ ワールドマップを使ってブラジルの現状を知る。(GDPの面積比等をいくつか提示する。)
- ④ ブラジルについてのミニ〇×クイズ
- ⑤ 突撃インタビュー！「サッカー少年編」

はじめまして
ブラジル

児童の感想

- ▶ ブラジルは面積が大きくて人口が多いことなど初めて知ったことがたくさんあって驚いた。
- ▶ ブラジルに移民している日系人が多いんだなあと思った。
- ▶ 10才の男の子のインタビューやサッカーをしている姿を見て、とても真面目でサッカーが大好きで夢を語っている男の子は輝いていると思った。

◆所感◆

子どもたちのブラジルに対するイメージは、やはりサッカーや日本の裏側といったものが多く、次回のサッカーのワールドカップやオリンピック開催地になっていることを知っている児童もいた。ブラジルについてのミニクイズは、どの子も興味を持って考え日本との相違点について考えることができた。

2 時限目：ブラジルについて知ろう①

ねらい…ブラジルの文化や生活について知る。

◆内容◆

- ① クイズ「わたしは誰でしょう？」(モノランゲージで考える。)
・各班でピラルク(世界最大といわれる淡水魚のひとつ)の鱗・舌、インディオの髪飾り・首飾り、ベリンバウをよく観察し、それらの用途について考える。
- ② 各班の考えを発表し、品物の名前や実際に使われている用途について説明をする。
- ③ 突撃インタビュー！「ジュース工場で働くお兄さん編」



◀ ネックレス



▶ ピラルクの鱗

児童の感想

- ▶ ピラルクのウロコや舌が「つめみがき」や「かかとみがき」だなんて全く見当もつかなかった。
- ▶ ピラルクのウロコや舌をさわられてうれしかった。
- ▶ ブラジルでは、魚などむだなく最後まで使い切りとても環境によいと思った。
- ▶ ブラジルには、日本にないような魚や道具、アクセサリー、楽器、民族のかぶり物などいろいろなものがあるんだなあと思った。

◆所感◆

どの子も初めて見る物に目をキラキラ輝かせて一生懸命にそれらの用途について考えていた。そして、子どもたちの目線でそれぞれの使われ方を考え発表していて、なるほどと思えるような考えもあり、子どもたちの考える力の凄さを改めて感じた。子どもたちが考えて考え抜いた後で実際の使い方等を教えるので、使い方を知った後の子どもたちの反応がとてもよく、モノランゲージの手法の良さを感じた。

3時限目：ブラジルについて知ろう②

ねらい…ブラジルの文化や生活について知る。

◆内容◆

- ① クイズ「わたしは誰でしょう？」(モノランゲージで考える。)
 - ・各班でシマホン・ガラナ、アメの包み紙・肉叩き・ニョッキを作る機械・おもちゃをよく観察し、それらの用途について考える。
- ② 各班の考えを発表し、品物の名前や実際に使われている用途について説明をする。

児童の感想

- ▶ マテ茶を一度飲んでみたいと思った。
- ▶ マテ茶の茶葉は、たたみのにおいがした。
- ▶ お茶を飲むストローの先の部分が小さく穴が空いているのは、飲むときに茶葉が入らないようにするためだと知って工夫されているなあと思った。
- ▶ 今日は、料理つながりの物が多かった。予想とちがったから残念。でも、ブラジルの文化がよく分かって良かった。

◆所感◆

前時も同様だが、モノランゲージの「モノ」をたくさん取り上げたので、それぞれの用途を考える時間が長くなり、予定していた突撃インタビューを見ることができなかった。しかし、じっくり考える時間も大切であると考えたので本時は突撃インタビューは入れなかった。

4時限目：ブラジルについて知ろう③

ねらい…ブラジルと日本の繋がりについて気づく。

◆内容◆

- ① クイズ「わたしは誰でしょう？」(モノランゲージで考える。)
 - ・各班で胡椒、カカオ豆についてよく観察し、何なのか考える。
 - ・各班の考えを発表し、品物の名前とその製造工程について説明をする。
 - ・日本と「胡椒・カカオ豆」との関係について考える。
- ② 日系移民の歴史について知り、ブラジルと日本の繋がりについて知る。
 - ・小長野さんのインタビュー
 - ・折り紙展のパネル
- ③ 突撃インタビュー！「和歌山県西牟婁出身の坂口さん編」



◀カカオ



カカオ豆▶

児童の感想

- ▶ ブラジルには日本人で苦労しながらもがんばっている人がいることを知ってすごいなと思った。
- ▶ ブラジルと日本は、物として人としてつながっていることを知りました。「夢は絶対に叶えてください。」という言葉に心をうばわれた。
- ▶ 日本から移民した人たちは、本当に大変だったことが分かった。
- ▶ 小長野さんのような移民をした人たちは、自分のやるべきことをあきらめずにやっていますすごいと思った。

◆所感◆

前回までのモノランゲージとは違い、2つの「胡椒」「カカオ豆」に絞って考えさせ、そこから日本とブラジルとの関係、繋がりについて考えを広めさせた。子どもたちは胡椒やカカオ豆から「モノ」と繋がり、「ヒト」と繋がっていることや、小長野さんのインタビューから日系移民の方々の苦労等について知ることができた。

5時限目：ブラジルについて知ろう④

ねらい…アグロフォレストリーについて知る。

◆内容◆

- ① 前時のカカオ豆を使ったチョコレートのパッケージからアグロフォレストリーの存在について知り、環境保全について考えさせる。
・「アグロフォレストリー ～森をつくる農業～」の動画からアグロフォレストリーについて学ぶ。
さらには、環境保全についても考えを深めさせる。
- ② 突撃インタビュー！「和歌山の先輩、小畑君編」

児童の感想

- ▶ アグロフォレストリーを考えた小長野さんは、木の生長まで考え、畑を無駄なく利用していてすごく尊敬できる。すごいと思った。
- ▶ 環境を考えてできたアグロフォレストリーは、焼き畑農業とちがい、環境に優しくこの農業のやり方を広めていってほしいと思った。
- ▶ アグロフォレストリーは、農業と林業を合わせた言葉。そして、いろんな農作物を植えるから、毎年毎年収入を得ることができることを知った。
- ▶ 大学院生の小畑さんの話を聞いて、人は何でもできるのだから、興味を持って積極的に調べるとは自分のためにも役立つことを知った。

◆所感◆

私自身、それぞれの作物の成長や収穫時期等を計算した環境に優しいこのアグロフォレストリー農法を知ったとき、感嘆と驚きを覚えたように、子どもたちも環境に優しい農法を知り、驚きやこの農法を考え出したことに感銘を受けていた。また、小長野さんの農場に和歌山県出身の大学院生が研究のためブラジルまでやってきていたのだが、その目的等についてのインタビューを見る子どもの目が輝いていた。

6～9時限目：ジャパニーズボックスをつくろう！

ねらい…日本を再発見し、日本が世界に誇るべき文化や伝統を見つける。

◆内容◆

- ① 各班で日本文化について調べ、ジャパニーズボックスをつくる。
・各班でジャンルを分けて調べ、6年2組オリジナルのジャパニーズボックスをつくる。
- ② 各班のジャパニーズボックスについて交流する。



ジャパニーズボックス▶

児童の感想

- ▶ 日本で生まれた文化や物などの歴史を知ることができた。
- ▶ 日本の良い所をボックスを通して教えられるから、すごく分かりやすく伝えることができると思う。
- ▶ 班で協力して作って楽しかった。
- ▶ 日本のことなのに知らないことがたくさんあって驚いた。

◆所感◆ 子どもたちは、進んで日本の文化について調べることができた。社会で学習したことや一学期に国語で調べた内容を思い出して日本文化を調べる手がかりにしている、家から実物を持ってきた子どももいた。調べる時間があまりとれず、まとめる時間の方が多くかかってしまったので時間があれば、今後も日本文化について触れる機会を作ったり調べたりしていきたいと思った。

10 時限目：キルギスについて知ろう！

ねらい…青年海外協力隊について知り、野村さんが協力隊員として訪れた国「キルギス」について知る。

◆内容◆

- ① 野村さんの自己紹介。
- ② クイズで知ろう！「キルギス」
- ③ キルギスと日本の繋がりについて考える。
- ④ キルギスの食文化から学ぶ。

野村さん▶



児童の感想

- ▶キルギスについて、顔が日本人に似ているところ、キルギスのみんながお肉を好きなのところなどが分かった。でも、ものすごく貧しいことも分かった。今日の給食も残してしまったので、今日はキルギスのお話を聞いて食べ物を残さないようにしたいと思った。
- ▶今日の学習で「命の大切さ」や「思いやることの大切さ」がよく分かった。
- ▶食べ物は残さず感謝して食べないといけないことが分かった。

◆所感◆ 導入で開発途上国についてとても分かりやすく説明をしていただいた。また、子どもたちに寄り添って話を進めてくれたのでとても良かった。キルギスと日本は繋がりがあることに驚いた子どもが多かった。食育の観点での話や道徳的観点からの話をしていただき、子どもたちは多くのことに気付くことができた有意義な時間になった。

4. 成果と課題

子どもたちは、ブラジルという国について興味を持ち、特にモノランゲージでのクイズ「わたしは誰でしょう？」では、毎回、今日は何んなモノが出てくるのが楽しみにしてくれていた。そして、日本とブラジルの繋がり「モノ」だけではなく「ヒト」として繋がっていることに気づくことができた。移民については知らない子どもが多かったので、知る機会になって良かったと思う。また、身近にある移民の地域についても今後学習を進める糸口にもなった。アグロフォレストリー農法については、映像で見るによりさらにイメージ化することができた。そして、授業の最後に現地で出会った方々のインタビューを紹介するコーナーを作ったが、子どもたちに向けてのメッセージは心打たれる熱いものばかりで、子どもたちの心に響くことができたのでとても良かったと思った。そして、発展としてジャパニーズボックス作りをし、日本の文化について改めて考えるよい機会となった。子どもたちにとっては日本古来の文化は少し遠い存在にあるということも知り、これらの文化は、私たちが誇りを持って受け継いでいかなければならないことだということも感じた。

課題としては教師海外研修を終えて一ヶ月半での実践授業だったので、帰国後の教材の収集や授業で扱う内容の精選等にもう少し時間が必要だったのではと感じた。また、自分が研修で感じた感動や体験がたくさんありすぎて、それをそのまま子どもたちに伝えることはとても難しく、授業を構成する時点で盛りだくさんになってしまう傾向があったので、授業内容の精選にはより時間をかけて行うべきだと感じた。当初の計画より、実践を始めると、思いの外、授業時数が増えたこともあり、約三ヶ月間に渡る実践授業となった。

はじめまして、ブラジル！ 

6年()組 名前()

*ブラジルについて知っていることを書きましょう。

*ブラジルはどこ？—〇で囲んでみましょう。



*今日の授業の感想を書きましょう。

参考資料

参考文献

・「ソトコト 2010年9月号
～特集ブラジル入門～」木楽舎

参考ホームページ

「アグロフォレストリー ～森をつくる農業～
(株式会社 フルッタフルッタ)」

<http://www.youtube.com/watch?v=UbMZVzRubhA>
「アグロフォレストリーってなに？」

(株式会社 明治)」

<http://www.meiji.co.jp/sweets/chocolate/agroforestry/>

資料1

◀導入時の
ワークシート

私は、
です。

そう考えた理由(使い方)は、

だからです。

資料2

◀わたしは、だれでしょう？
ワークシート